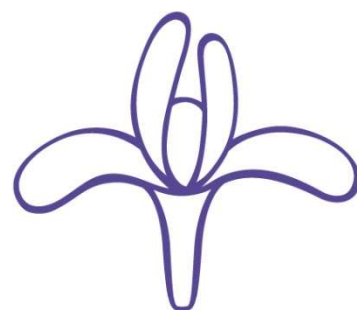


がん患者さんの「治療と生活」をつなぐキャンサーリボンズ
第1回「がん支えあいの日」記念イベント

がんを語りあいましょう。
あなたが大切だから。



チャリティイベント 報告書

株式会社朝日エル

主催

NPO法人キャンサーリボンズ
しんゆりリボンズハウス本部

助成

 **日本財団** 助成事業
The Nippon Foundation

協賛

株式会社スヴェンソン **SVENSON**
JAPAN

ホテルモリノ新百合丘  ホテルモリノ新百合丘



開催主旨・概要

明日、6月21日は『がん支えあいの日』です。

『がん支えあいの日』は、社会全体でがんとがん患者さんの自分らしい生活を支援することを行動に移す日です。
がんに関わる情報を共有し、ひとりひとりが自分にできることを考え、行動に結びつけていけるよう、呼びかけていきます。
6月21日は北半球の夏至、南半球の冬至にあたります*。
太陽が北回帰線の真上に達し、その日を境に太陽の動きが変わる節目の日です。世界共通、自然の営みの節目にあたる日に
“がんも人生における節目である”ことを重ね合わせ、
最も長い昼あるいは長い夜に“がんについて考え、語りあう時間”を持っていただければと考えています。

催事名称 『明日はがん支えあい日。がんを語りあいましょう。あなたが大切だから』
第1回「がん支えあいの日」記念チャリティ・イベント

開催日程 2009年6月20日(土)

開催時間 16:00～18:30(受付開始15:00)

開催場所 ホテルモリノ新百合丘
神奈川県川崎市麻生区上麻生1-1-1 044-953-5111(代表)

主催 NPO法人キャンサーリボンズ、しんゆりリボンズハウス本部

助成 日本財団

協賛 株式会社スヴェンソン、ホテルモリノ新百合丘

後援 厚生労働省、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、
日本栄養士会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、
日本がん看護学会、日本緩和医療学会、

参加料 2,000円

当日参加者 175名(関係者・報道含む)

報道 毎日新聞社、プレミアムクロワッサン、マイタウン21
タウンニュース、トーオン

司会



深野 弘子さん フリーアナウンサー

司会

フリーアナウンサーとしてテレビ朝日「オリジナルコンサート」や、天皇后ご臨席の式典、コンサートやフォーラムなどの司会を。また「藤沢周平の世界」鶴岡・東京公演、芸大創立120周年記念オペラ「白狐」の語り手、文化庁派遣の劇団ワークショップ講師など、朗読や語りにも挑戦。7月にチェロと三味線と語り手のための音楽ドラマ「華岡青洲の妻」で語りを、10月吉武輝子さんと竹下景子さん連と「ななにん会」庄内公演を予定。



優しく穏やかな語り口調で開会。
今回の出演者とは「ななにん会」を通して
気心が通じ合っている仲間だけあって、
落ち着いてゆったりとした進行で聴衆に
安心感を与えた。



ピアノ演奏



藤井 弘子さん 医師

ピアノ演奏

医師である父と開業医の娘である母との間に生まれ、京都と信州で育ちました。子供の頃、近所の家から聞こえるピアノの音に興味をもち、クラシックピアノを買い始めました。どちらかというと、ピアノの練習は得意ではなく、好き勝手に曲を作っては弾くというのが好きでした。最近、子供の頃に作りためた曲のうちの7曲をCDとして録音しました。医学の世界に興味をもち、大学は関西医科大学医学部に進学しました。現在は医師、皮膚科医となって患者さんをみながら、京都大学の大学院に進学し、皮膚悪性腫瘍についての研究を日夜行っているところです。音楽は自分の一部であり、自分にとっても癒しとなります。できれば音楽で患者さんの心を癒しながら、医者の仕事、医学の勉強も続けられたらいいなと思っています。



自作の曲、4曲を演奏。
皮膚科医師でありながら、患者さんの
気持ちをいやしたい、という思い
で演奏活動を行っている、とコメント。

1. 桜吹雪
2. 幸せに
3. 大空に
4. 未来への記憶



チャリティイベント



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサーリボンズ

あいさつ「がん支えあいの日：に寄せて

福田 護氏

NPO法人キャンサーリボンズ理事長
聖マリアナ医科大学附属研究所
プレスト&イメージングセンター院長



牧野 道也氏

株式会社スヴェンソン常務取締役



中島 豪一氏

ホテル モリノ新百合丘代表取締役社長





朗読「がん患者一人ひとりの、そして、みんなの物語—

演劇/スペース・ターミナル・ケアより



竹下 景子さん 俳優

朗 読

自らがんを抱える医師がつくったホスピスに集う、年代もがんの状態も違う様々な患者達の1週間の物語。語りや会話を通じて見えてくる一人ひとりの背景と心の中。彼らが現状を受容し希望を見出す群像劇を朗読バージョンに書き下ろしていただく。「がんって?」「生きるって?」「希望って?」をユーモアや恋愛をまじえて聞かせる。

1953年9月15日生まれ。愛知県名古屋市出身。東京女子大学 文理学部社会学科卒業。1973年、NHK『波の帯』でデビュー。映画『男はつらいよ』のマドンナ役を3度務め、『学校』では第17回日本アカミー賞 優秀助演女優賞を受賞。2007年、舞台『朝焼けのマンハッタン』『海と日傘』にて、第42回紀伊國屋演劇賞 個人賞を受賞。テレビ・映画・舞台への出演の、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」ワクチン大使、国連WFP協会(国連世界食糧計画)顧問、心・心・心富良野自然塾でのインストラクターなど幅広く活動している。2009年11月29日よりNHK総合で放送の「坂の上の雲」(全5回)に秋山 貞役で出演。また今秋、紀伊國屋ホール他にて舞台『選った男の残したものは』への出演が決定している。



「演劇/スペース・ターミナル・ケア」を吉武輝子氏が朗読用に書き下ろし、さらにその台本に竹下さんご自身が手を入れて作り上げた懇親の作品。

宇宙船のターミナルと終末期のターミナルをかけたその内容は大変感動的で、さらに情感たっぷりに語る竹下さんの姿に会場は感動の渦に包まれた。





朗読後のあいさつ

下哲也氏

劇団俳優座 演劇制作部副部長

演劇/スペース・ターミナル・ケア の実作者である下氏が特別参加。
今回を機に再演の希望をつなげていきたい、と語った。





対談 共にがんと向き合って。 患者と主治医、大切にかけがえのないあいだから



吉武 輝子さん 評論家・作家・NPO法人キャンサーリボンス委員

対談

大腸がん体験者。ほかにも多くの病気を抱えるが、精力的に文筆・講演を行い、多くの人に生きる勇気を与え続けている。外出時に欠かせない酸素ボンベ用に花柄のカバーを手作りするなど、おしゃれも元気の秘訣。

1931年兵庫県芦屋市生まれ。1954年慶応義塾大学文学部卒業。同年4月に東映宣伝部に入社。1961年日本初の女性宣伝プロデューサーとなる。東映を退社後、文筆生活に入る。1968年婦人公論記者賞受賞。現在、「吉屋信子記念館」運営委員長を務める。女性問題を中心に評論・文筆活動も続けており、著書に「女人 吉屋信子」「ブルースの女王 浅谷のり子」「炎の画家 三岸節子」(以上、文藝春秋)「生きる。一八〇日のおお空」「置き去りサハリン 残留日本女性たちの六十年」「ひとりの老後を心楽しく生きる方法」(ともに海竜社)「私」が「わたくし」であることへ」(ノド・ウィメンズ・オフィス)「死ぬまで幸福でいるための12か条」(講談社)など多数。



志田 晴彦さん 東京厚生年金病院 副院長・外科部長

対談

1977年東京大学医学部卒業。三井記念病院、東京厚生年金病院、国立がんセンターなどで外科のトレーニングを積み、現職に至る。東京都認定がん診療病院である同院のがん診療委員長をつとめる。東京都がん診療連携協議会委員。日本外科学会、日本消化器外科学会、日本大腸肛門病学会専門医および指導医。日本がん治療認定医機構 教育医。専門は消化器外科とくに大腸癌、胃癌、転移性肝癌などの外科治療。地域のがん診療ばかりでなくネットでのがんのWeb相談室 (<http://2nd-opinion.ese.ne.jp/>) にも参加して全国の患者さんからの診療やセカンドオピニオンに答えている。



患者と主治医というそれぞれの立場で語られるその内容(大腸がんと闘病について)は、決して辛いはずがない、と思わせる内容だが、お二人の息のあった掛け合い漫才のような対談に会場も思わず大笑い。苦しさも笑いに変える、とても楽しい対談となった。吉武氏の「人生の最後の預け場所が決まっていることはとても幸せなこと」と語るその言葉に主治医との信頼関係がいかに大切なことかと、しみじみ考えさせられた。会場からも「今後、病氣と闘っていく勇気をいただいた」との言葉が多数聞かれた。





歌 歌とともに明日を生きる



吉岡しげ美さん ピアノ弾き語り・作曲家

歌

日本の女性詩人の詩や短歌、「枕草子」「百人一首」などのピアノの弾き語りで著名。乳がんを乗り越えて国内はもとより、米国、東西ヨーロッパ、アジアなどでもコンサート活動を行っている。http://www.shigemin.com

武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科声楽専攻卒、日本女子大学家政学部児童学科卒、日本女子大学大学院家政学研究所児童学専攻修士課程修了。カリフォルニア大学バークレー校にて、アフロアメリカンミュージック、アフリカンアンサンブル、ガムランミュージック、ピアノのインプロビゼーションを学ぶ。現西武文理大学サービス経営学部教授。CD、著書多数。

吉岡さん自身が乳がん患者である、ということからご自身の体験のお話と、歌われる「金子みすず」の詞が非常にマッチして、感動的なステージとなった。

司会の深野弘子氏の詩の朗読とのコラボレーションも素晴らしかった。



金子みすず「このみち」
このみちのさきには、
なにかなにかあろうよ。
みんなでみんなで行こうよ、
このみちをゆこうよ。

チャリティイベント



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサーリボンズ

合唱 「あなたが大切だから」



岡山慶子氏

NPO法人キャンサーリボンズ副理事長
朝日エルグループ会長



岡山慶子副理事長の挨拶ののち、「リボンズハウスの仲間たち」という紹介の下、壇上には野末悦子先生（コスモス女性クリニック院長）、竹田寛先生ご夫妻（三重大学医学部附属病院院長）の委員の先生、福田理事長、キャンサーリボンズスタッフが上った。

藤井弘子氏の伴奏のもと、会場のお客様も配られた譜面を見ながら「あなたが大切だから」を熱唱。会場が一体となった。



チャリティイベント



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサーリボンズ

受付・会場風景



お茶とケーキでおもてなし



チャリティイベント

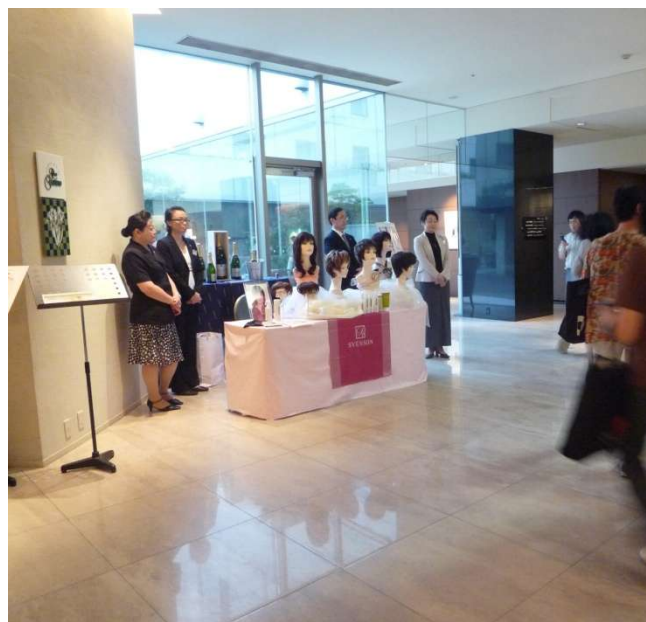


がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサー・ボネズ

スヴェンソン様 展示風景



ロビーではウィッグの展示。
プログラム内では「キレイの力」
プロジェクトのDVDも上映された。



チャリティイベント



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサー・ボネズ

会場案内 掲示等

ホテルモリノ新百合丘 入口



チャリティイベント



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサーリボンズ

当日配布物



プログラム
キャンサーリボンズ パンフレット
バッジ
アイリスの球根
「あなたが大切だから」楽譜
スヴェンソン パンフレット
アンケート
吉岡しげ美さん チラシ
リボンズハウス チラシ

♪あなたが大切だから

作詞・作曲: 山田 邦子 編曲: 小六禮次郎

あなたとつなごう その手と手
いっしょに歌おう 大きな声で
あなたのやさしさ あなたの笑顔
わかっているよ ありがとう

あなたと歌おう この歌を
いっしょに夢ごう 手を振って
疲れた時には 休めばいいさ
わかっているよ ありがとう

つなげよう心を 虹のリボンで
咲かせよう心に 愛の花を
あなたが大切だから アイリスの花

つなげよう心を 虹のリボンで
咲かせよう心に 愛の花を
あなたが大切だから アイリスの花



キャンサーリボンズに届いた、アイリスの写真

昨年7月に開催した、「あなた大切です。思いあうフォーラム2008」で、参加者の皆さまにお配りしたアイリスの球根が育った姿。当日、スライドにて紹介した。

アイリスの球根はこの日も配られた。来年の報告が待ち遠しい。

